

科学研究費成果報告書「日本近代史料情報機関設立の総括的かつ細目に関する研究」（基盤研究（B）（1）、平成13・14年度、代表者伊藤隆、課題番号：13490012）より

出張調査報告書の概要と成果

平成13年度、平成14年度においては、新たに人物本位の観点からの史料調査を行い、加えて、これまで行ってきた研究の継続調査や補充調査を各地で行った。調査にあたっては目録（あるいはその複写物）の提供など、調査対象機関各位から多大の協力を賜ったことを感謝したい。

本節では、当該年度に行った調査対象機関や調査史料、成果などの概要を、調査の日付順にまとめた。記述形式や内容に不統一があるのは、各調査者から提出された出張調査報告書をもとに作成したためである。

なお、本章の記述を参照される際の注意点であるが、収集した目録の内容の公開に関しては各史料所蔵機関への事前の確認が必要なものが含まれている。この点につき留意されたい。

①調査者 武田知己（日本学術振興会特別研究員）

高橋初恵（近代日本史料研究会事務局）

大久保文彦（明治学院大学非常勤講師）

出張期間 平成13年7月27日～7月29日

調査機関 酒田市立光丘文庫

鶴岡市立図書館郷土資料室

酒田市立資料館

調査目的

今回の調査は、山形県鶴岡市で開催された全国軍事史学会に連動する形で企画され、平成13年4月から6月にかけて開催された『石原莞爾資料展』（主催・酒田市立中央図書館・酒田市立光丘文庫）を直接の契機として、石原莞爾に縁の深い山形県鶴岡市及び酒田市に収蔵されている石原莞爾関連史料の現状を把握するために行った。

専ら調査したのは、石原関連史料が収蔵されている酒田市立光丘文庫、並びに鶴岡市立図書館郷土資料室の両機関であり、且つ、期間中複数回に涉って両機関を訪ねた。両機関に於ける他の史料群に関する調査は、発行目録の収集等を除いて、余り行われなかったことを附言しておく。

1) 調査機関 酒田市立光丘文庫

調査史料 石原莞爾蔵書

当文庫は、以前、酒田市立図書館の一部であったが、その後独立し、市立図書館は市立中央図書館と改称された。当文庫が所蔵する石原莞爾関連史料の大半は蔵書であり、その

全容については、昭和 63 年 3 月に酒田市立図書館名義で刊行された『酒田市立図書館所蔵石原莞爾旧蔵書目録』に詳しい。

目録に掲載された書籍・雑誌等の合計は 1484 部・2225 部、補遺として追加された点数は約 52 部、合計で約 2300 点にも上る（より細かく数えれば 3700 点以上）。半数以上を石原莞爾が洋行中に買い求めた洋書が占め、その中には、フリードリヒ大王やナポレオン一世、モルトケ、シュリーフェンといった欧州の名だたる武将に係わる貴重な初版本も少なくない。こと、西洋軍事史に関しては、我が国有数のコレクションであると断言できる。

目録のあとがきに述べられている通り、石原が収集したコレクションには書籍のみならず絵画も含まれていたが、戦中戦後の混乱の中で、多くは盗難や焼失の憂き目を見た。この過程で、日清戦争・日露戦争・第一次大戦など日本が参加した戦役に関する蔵書も又、空襲等により焼失した旨記載されていたが、今回の調査により、その事実を確認する事が出来た。

日本の軍事史に関する蔵書は量的にも少なく、内容的にも他に見られぬような貴重なものは殆どない。が、書庫内に案内して頂いた際に、何点か書類を発見したものの目録上では確認できなかった事を考慮すると、本目録は必ずしも網羅的なものではないかも知れない。

調査史料 石原莞爾書簡

調査した書簡は、海外の赴任先から石原莞爾が夫人宛に認めたものであり、合計 19 冊のファイルからなる。複製物ではなく自筆のものであり、これらがクリアファイルに一通々々収められている。小さな字でびっしりと書き込まれ、且つ事細かな指示に満ちたその内容は、石原莞爾のひととなりを知る上で非常に興味深いものであろう。

これらの書簡群は大きく二つに分かれる。T9-10/11-1~10 と分類された 10 冊は、中国漢口に赴任していた頃の書簡から構成され、これらは 1985 年から翌 86 年にかけて刊行された『石原莞爾選集』（全十巻）の内、第一巻『石原莞爾選集 I 漢口から妻へ』で翻刻されているものである。

残る D1~D9 と題された 9 冊のファイルには欧州留学を命ぜられドイツに滞在した当時の書簡であり、同じく『石原莞爾選集』第二巻『石原莞爾選集 I ベルリンから妻へ』に翻刻されている。

なお、これら 19 冊にはファイル毎の詳細目次が付属していないことを記しておきたい。

調査史料 大川周明蔵書

東京裁判以降、巷間イメージされるファシズム思想家の一人としてではなく、宗教学者として出発した大川周明の思想的原点を垣間見ることが出来る蔵書群である。卒業論文が『龍樹菩薩論』であった事からも連想されるように、仏典が大半を占めるが、イスラム関係の蔵書も多く、大川の思想的バックボーンが偲ばれるコレクションである。

収集目録

・酒田市立光丘文庫

- a. 石原莞爾関係 『酒田市立図書館所蔵 石原莞爾旧蔵書目録』1冊（購入）
- b. 大川周明関係 『酒田市立光丘文庫所蔵 大川周明旧蔵書目録』1冊（購入）
- c. 『酒田市立光丘文庫所蔵国書分類目録』1冊（購入）
- d. 諸家文書目録Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 各1冊（購入）

・酒田市史編纂室：酒田市は昭和13年に村町合併が行われ、10万人都市となった。この酒田市史編纂室にはそれ以前の、地租改正文書や役場各部署の行政文書の綴りが保存されており、袖浦村、鵜渡川原村、南遊佐村の分も一部含まれている。その他の旧役場文書はそれぞれの地域の公民館に保存されている。

- a. 平田公民館 旧村文書 1,353冊 個人がコミュニティ会報に連載中。
- b. 上田公民館 " 416冊 「上田史」編纂中。
- c. 新堀公民館 " 286冊 江戸時代の文書多数が保存されている。
個人的に保存している文書も多数あり。
「落野目村史」概刊。
- d. 広野公民館 " 1,622冊 編纂を進めることを公民館では推奨している。
部外者は所蔵されている土蔵には入れないが、
公民館での閲覧は可。
- e. 東平田公民館 " 159冊 公民館事務室戸棚に保存されている。
編纂の計画あり。
- f. 北平田公民館 " 300冊

2) 調査機関 鶴岡市立図書館郷土資料室（面会者 秋保良氏）

調査史料 石原莞爾資料・書翰

この資料室は、本調査のメインとも云うべき石原莞爾に関する資料群を収蔵する。

昭和四十年代に相次いで発刊された『石原莞爾資料』（戦争史論・国防論策編）の原史料を含む膨大なもので、その概要は鶴岡市郷土資料館より昭和57年に刊行された『諸家文書目録Ⅲ』の『石原莞爾資料』と題された目録に詳しい。

今回の調査で明らかになった点は幾つもある。何よりもまず確認しておきたいのは、公刊目録に収録されていない多数の資料が存在すること、就中、石原莞爾宛の書簡ばかりか、石原莞爾自身が発した書簡の写等も多数、存在することである。

来翰の内、差出人別にあいうえお順で1～859迄ナンバリングされている1000通を超える書簡群の場合、カード目録が作成されて居り、番号を指定すれば閲覧可能である。他方、別途、『石原莞爾資料目録 書簡Ⅱ』（未刊）として鶴岡市立郷土資料館名義で作成された目録には、860から1200番台までの約1200通が別途リストアップされている（この手書きの目録は、ナンバリングの方針が一部理解し難い。1300番台が認められないにもかかわらず、二三、2000番台が存在する）。

これらの3000通以上の膨大な書簡群に認められる顕著な特徴は、石原莞爾宛の来翰であ

ることに止まらず、著しい年代的な偏りが認められることであり、昭和 16 年に師団長を最後として石原莞爾が予備役に編入された時期以降のものが圧倒的多数を占めている。

この年以降、石原莞爾が自ら提唱した東亜聯盟運動に邁進していった事実を鑑みれば、これらの書簡は、専ら東亜聯盟に関わる人々からの来翰から構成された史料群であると推測できる。全国津々浦々から送られた、研究者には必ずしもその名に馴染みがあるとはいえない人々の書簡が多数存在すること、又、石原の現役当時の軍人からの来翰が極端に少ないこと、存在していたとしても、大多数が石原莞爾の師団長退任を労う内容に終始していることは、上記の推測を裏付けるものである。

一方、石原莞爾が発した書簡類は十分に整理されて居らず、一定の纏まりのまま、夫々がカードに記入されているだけで、目録が整備されている訳ではない。この点は上記の 1～859 番台の来翰と同様であるが、公刊目録に登録済みのカードと同一のボックスに収納され、一覧も整備されていない。

これらのカード目録に就いては目録登録済のものを除いて、図書館側の御好意により、悉皆コピーを取ることが出来た。具体的には、目録未掲載と云う教示に基き、カードボックス内部の書簡と題された仕切以降のカード目録をコピーした訳であるが、後日判明した点として、これらが、石原莞爾が発した書翰ばかりでなく、広く他の形態の資料をも含んでいることが確認できる。カード枚数から勘案して、その点数は少なくとも 180 点（カードによっては複数登録されているものもある）程度になるのであるが、これらの内容は、鶴岡市郷土資料館が作成した『石原莞爾資料の内 目録未収分一覧』と題する未刊リストと内容的には略一致するが、件数が一致しない。未収分一覧よりもカードの方が 2 割程度多くなる。

又、『「石原莞爾資料目録」要訂正個所の例』、『「石原莞爾資料目録」に未所収分』なるリストも入手できたが、これらの内、『未所収分』リストの総ては石原莞爾自らの手になる書状或いはその写しであり、36 通に上る。

なお、これら未所収分の内、24 通は夫人宛の書翰で、前記酒田市立光丘文庫所蔵の妻宛書翰が大正期のものであるのに対して、2 通を除き、総て昭和期のものであることも茲に附言して置きたい。

調査史料 石原莞爾資料・書類

膨大な資料群の極々一部を確認し得たに過ぎないものの、既述の『石原莞爾資料』（戦争史論・国防論策編）の基となった史料については改めて確認を行った。これらの一部に就いては、国立国会図書館憲政資料室にマイクロフィルムが存在するものの、例えば、目録番号 K31「満州事変〔意見書并講演原稿〕」等は、存在しない。以下では、この史料に就いて述べることにしよう。

繰り返しになるが、これは角田順の手になる『石原莞爾資料 国防論策編』の基礎史料とでも云うべき存在であるにも拘わらず、この本の「第一部 関東軍参謀時代」の目次を一瞥するだけで直ちに理解できる様に、現存する史料の保存形態、就中、諸史料の順番を

全く留めて居らず、他の史料をも交えて編者の手で恣意的な配列がなされてしまっている。この史料が単なる書類の束であるならば或いは難ずるに足らないのかも知れないが、こと、これに限ってはそうも行かない。と云うのも、この満州事変と題された史料は単に 33 の史料から成り立っているばかりでなく、これらが大きく三部に整然と分類され、且つ石原の書き込みが見られるからであり、その古めかしい装丁からしても、石原莞爾自らの手によって編綴されている可能性が濃厚であると言わざるを得ないからである。

これは公刊目録の「3 原稿・備忘録」に掲載された他の史料にあっても同じく認められる処であって、この装丁が石原莞爾資料が寄託された昭和 52 年以降に編綴されたものと考えすることは難しい。従って、この密に結合された史料群を解体し、他の史料とシャッフルした上で、配列し直した上記の史料集は、石原莞爾自身の考えを取り逃がしている可能性があり、利用者は注意が必要であろう。現物を確認する必要を改めて痛感した次第である。

調査史料 石原莞爾資料・写真／フィルム

石原莞爾の趣味が、写真と 8 ミリによる動画撮影であった事は知られている。現像された多くの写真を見る機会を得たものの、ネガケースに自筆で題が記されているトーキーフィルム 23 本は、嘗て NHK が『ドキュメント昭和』を作成の際、VHS に変換されている事を確認するに止まり、鑑賞出来なかった。

収集目録

1) 石原莞爾関係

『石原莞爾資料の内 目録未所収分一覧』

『石原莞爾資料目録 書簡Ⅱ』

『「石原莞爾資料目録」要訂正個所の例』

『「石原莞爾資料目録」に未所収分』

『石原莞爾撮影トーキーフィルム』（一綴り）

『新聞所蔵一覧』

2) 家分け文書

『諸家文書目録』 I～X（購入）

「寄託資料目録第 26 号 秋野家文書目録 1」（冊子予定分）

秋野友樹氏所蔵「寄託文書目録第 26 号 秋野家文書目録 2」（閲覧のみ）

「寄託文書目録第 29 号 播磨斎藤家文書目録」（閲覧のみ）

斎藤正一氏所蔵「押切地区文書目録」（閲覧のみ）

3) 役場文書（ファイル綴じ、閲覧のみ）

「旧湯田川村役場文書目録」・「旧西郷村役場文書目録」・「旧栄村役場文書目録」

「旧黄金村役場文書目録」・「旧京田村役場文書目録」・「旧加茂町役場文書目録」

「旧田川村役場文書目録」・「旧大泉村役場文書目録」・「旧上郷村役場文書目録」

「旧大山町役場文書目録」・「旧豊浦村役場文書目録」・「旧斎村役場文書目録」

4) その他の公文書・行政文書・家文書等（すべて閲覧のみ）

「二口文書目録」(鶴岡市立図書館内庄内史料調査会、昭和 32 年 11 月)
「庄内水産(株)廃棄書類仮目録」(平成 5 年 11 月、広島大学阿部秀樹氏作成)
「農業改良普及所廃棄書類仮目録」(平成 5 年 11 月、広島大学阿部秀樹氏作成)
「上郷地区文書目録類」(この地区の各村の行政資料を綴ったもの。保存先は公民館や元村長や個人所有や寺など。)
「湯野浜地区文書目録」
寄託文書第 7 3 号「対馬地区文書目録」(三川町対馬町内会所蔵)
「上清水地区文書目録」(上清水公民館館長三浦氏寄託)
「医事講究所史料」
「医師会史料目録」
寄託資料目録第 5 1 号「伊藤家史料目録」(伊藤喜久井氏寄託)
鶴岡市『「上郷地区文書目録」—上郷コミュニティセンター所蔵『上郷の歴史』編纂史料編一』(平成 8 年 1 月、鶴岡市上郷地区自治振興会、郷土史資料保存委員会：秋保氏が編集を手伝ったもの)
「下川区有文書」(平成 10 年 1 月、下川区有文書保存会：五十嵐清介氏を中心に秋保氏が手伝って作成。)

3) 調査機関 酒田市立資料館

酒田市の考古資料や民俗資料、産業、経済、文化などの変遷や特徴を示す資料、飛島・庄内砂丘の自然や風土に関する資料などが収集・保存されているが、日本近現代史に関する特にめばしい史料・文書等は見当たらない。ただし、当資料館の調査員である佐藤昇一氏が、個人的に大川周明関係の史料を所蔵していることがわかった。今後佐藤氏からの情報及び所蔵史料の閲覧等は、有益なものになるのではないかと思われる。

成果

総括として、書翰を検討した際、確認し得た事実が書類にも同様に当てはまる。書類には K31「満州事変〔意見書并講演原稿〕」のように、石原が現役時代の史料も決して少なくはない反面、これらの大半は、日記を除けば、何らかの形で石原自身による取捨選択の結果、編綴されていると考えられ、手を加えられる事無く現存している史料は、概ね昭和 16 年以降、石原が東亜聯盟運動に邁進し始めて以降のものが大多数を占めている。

従って、満州事変や参謀本部部長時代の史料を求めてくるものは期待外れに終わる可能性が大である反面、東亜聯盟運動を研究するものにとっては宝庫であろう。

②調査者 小池聖一(広島大学総合科学部助教授、整理代表者)

調査期間 (平成 12 年 3 月 30 日～3 月 31 日)

(平成 12 年 9 月 24 日～9 月 27 日)

平成 13 年 8 月 6 日～8 月 9 日
平成 14 年 1 月 6 日～1 月 9 日
平成 14 年 3 月 24 日～3 月 29 日
平成 14 年 9 月 21 日～9 月 24 日

調査機関 大平記念館

調査史料 大平正芳関係文書
津島寿一関係文書

成果（作業内容および進行状況）

大平記念館所蔵『大平正芳関係文書』について、大平正芳記念財団および大平記念館のご厚意により、平成 12 年 3 月に所在調査して以来、平成 14 年 12 月末に至るまで、表記「大平正芳関係文書」の保存と目録作成を目途とした整理作業を行ってきた。

平成 14 年 12 月末日現在、大平記念館が所蔵している「大平正芳関係文書」および「津島寿一関係文書」については、全体の約 80%について整理と目録化を終えている。

基本的に、前回の「日本近代史料情報機関設立の具体化に関する研究」において、①平成 12 年 3 月の調査では所在確認を、②平成 12 年 9 月より、第一次の史料確認を行うとともに、原秩序に基づく分類を始めた(荒整理)。そして、本研究「日本近代史料情報機関設立の総括的かつ細目に関する研究」では、③平成 13 年 8 月の調査以降、目録整理を始め、平成 14 年 12 月現在、大平正芳関係文書中、芳名録と写真帳等を除く約 4 千点の史料を整理し、目録化を終えている(全大平正芳関係文書中の約 8 割程度の整理を終えている)。今後、目録を整備した上で、最終的な確認作業を行い、平成 15 年度中に目録を完成させる予定である。

上記、大平記念館所蔵の文書を中心とする史料群は、四つの史料群より形成されている。第一は、日記・書簡・夫人日誌・大平記念財団所蔵大平正芳関係文書等の私文書である。内容は、大平正芳日記、森田一氏による秘書官日記、大平志乃夫人の日誌、および大平正芳関係の書簡である。しかし、書簡には、大平事務所宛のものも多く含まれている。また、大平記念財団所蔵大平正芳関係文書は、大平志乃夫人が最後まで保管し、財団に寄贈され、大平記念館に移管された大平正芳宛書簡を中心とするものである。

第二は、伝記資料および草稿・書類 [福川秘書官資料]・インタビュー関係等、大平正芳の回顧録等作成のために収集された史料群である。このうち、伝記資料および草稿は、『大平正芳回顧録』作成・執筆に収集・整理された資料群である。書類 [福川秘書官資料] は、福川伸次元通産事務次官が保管していた大平首相秘書官時代の書類である。同様にインタビュー関係も、回顧録執筆のためになされた関係者によるインタビュー記録である。

第三は大平事務所が所蔵していた書類である。内容は、大平事務所日誌、日程表・大平事務所関係書類・選挙関係・外務大臣期・ファイル（大平事務所作成）・スクラップブックであり、大平事務所の日常的な作業としての日誌・日程表、大平正芳関係のスクラップブック、陳情・請願から選挙関係までの書類である。ファイル（大平事務所作成）は、大平

正芳によるメモ（政策・政局）等を中心に構成されている。なお、外務大臣期とある史料群は、昭和 37 年の第一次外務大臣期における広報関係の史料であり、当該期の秘書官がまとめたものと考えられる。そして、当初より、所蔵は、大平事務所が保管していたものと推測される。

第四は、大平記念館開館時に、寄贈された「津島寿一関係文書」である。中心となるのは日記であるが、大蔵大臣期のものではなく、手帳に記載がある。

以上の目録作成は、結果として歴史資料としての公開を意味することとなる。その際、問題となるのは、著作権が存在し、また、関係者も存命なことである。このため、公開にあたっては、プライバシーの保護等にも配慮する必要がある。

③調査者 山崎有恒（立命館大学文学部助教授）

調査期間 1) 平成 13 年 10 月 20 日～10 月 23 日
2) 平成 13 年 12 月 1 日～12 月 4 日

調査機関 1) 国会図書館・湯本輝夫氏宅
2) 埼玉県立文書館・湯本堪方氏宅・蔵

調査史料 湯本義憲（衆議院議員、岐阜県知事）伝記類の調査
成果

1) 湯本義憲の孫にあたる輝夫氏を訪ね、祖父義憲に関する聞き取りを行うとともに、義憲に関する史料の残存状況について調査した。ここで『湯本義憲君小傳』（明治 25 年 3 月 3 日）の複写を収集する。行田市の湯本家本家に史料残存との情報を得たので、再調査を約した。

2) 湯本義憲関係文書の閲覧とその現状確認を行った。まず、埼玉県立文書館を訪ね、当館所蔵の湯本義憲関係文書（未整理・目録未作成）の現状を確認した。次いで、湯本家の蔵内を調査したが、埼玉県文書館へ移管した上記史料以外の目新しい発見は得られなかった。湯本家では、史料の伝来につきいくつか事実確認ができ、引き続き調査を依頼した。

④調査者 服部龍二（拓殖大学政経学部助教授）

調査期間 平成 13 年 10 月 26 日～10 月 28 日

調査機関 門真市立歴史資料館

調査史料 幣原喜重郎（第 44 代総理大臣）に関し、出身地の大阪府門真にて私文書の所蔵公開状況を調査

成果

門真市立歴史資料館に所蔵されている幣原家文書は近世を中心としている。そのため、幣原喜重郎に直接係わるような史料は多くない。だが、幣原喜重郎のルーツを知るうえで、幣原家文書は不可欠なものとなる。今後は、大阪府公文書館でも同様の調査が必要となってくるであろう。

門真市立歴史資料館で公開されている幣原家文書は、近世を中心としている。したがって、幣原喜重郎の父新治郎に関する資料が散見されるものの、明治以降のものは少なく、喜重郎に関する史料は極めて限られている。幣原家文書には目録があり、複写済である。

また、ここでの幣原展は、近世以来の幣原家全般に関するものであり、喜重郎だけを取りあげたものではない。震災や戦災の影響で、喜重郎の遺品はほとんど残っていないとのことである。むしろ、幣原喜重郎の兄で初代台北帝国大学総長の坦に関するものが多数残されている。直筆ノートや書翰、葉書、写真等である。

その他、ビデオやパンフレットが作成されている。門真市広報課が作成したビデオのタイトルは『幣原喜重郎—平和外交の先駆者・第44代総理大臣—』である。

市立歴史資料館とは別館の市史編纂課では、幣原家文書を交えながら、『門真市史』の編纂が続いている。現在、第4巻まで刊行されており、近代を対象とする第5巻が平成13年10月末に刊行予定である。それ以前の、『門真町史』は品切れであるが、幣原関係の該当箇所を複写してある。

なお、平成14年3月頃を目途にして、幣原喜重郎の遺族による歴史講座が門真市立歴史資料館にて開催予定である。日程が許す限り、参加したいと考えている。

収集目録

『幣原家文書目録』（複写、門真市立歴史資料館）

門真町史編纂委員会編『門真町史』（門真町役場、昭和37年）

門真市編『門真市史第3巻 近世史料編』（門真市、平成9年）

門真市編『門真市史第4巻 近世本文編』（門真市、平成12年）

パンフレット『「幣原家」の足跡を訪ねて～門真出身の第44代総理大臣・幣原喜重郎～』（平成13年、門真市立歴史資料館）

ビデオ『幣原喜重郎—平和外交の先駆者・第44代総理大臣—』（門真市広報ビデオ、1996年）

⑤調査者 季武嘉也（創価大学文学部教授）

西川誠（川村学園女子大学文学部助教授）

調査期間 平成13年11月15日～11月18日

調査機関 岡山県総務部学事課文書整備班

犬養木堂記念館

山口県文書館

東行記念館

調査目的

この出張では、本研究会で未だ調査が行われていない山陽地方の調査を行うことを目的とした。ただし、広島県に関しては、研究分担者の小池聖一氏が広島大学に在職中であり、割愛した。また日程の関係から、各県のセンター的な役割をしている箇所限定した予備的調査を目的とした。

1) 調査機関 岡山県総務部学事課文書整備班（面会者 主幹・定兼学氏）

調査史料

整備班は、10年以上前に完結した『岡山県史』編纂の際の史料を引き継ぐとともに、県下文書の受け入れ・整理を担当している。したがって県下の主要文書の目録を作成・保持（原文書・マイクロ）しているとともに、整備班作成以外の文書目録も収集していた。

そこで、目録類を閲覧し、必要な目録を複写した。

所蔵史料の大半は近世庄屋家を中心とする家別史料であり、その中には当然近代文書が含まれていた。戸長役場史料・旧町村史料の所蔵及び目録もかなりあったが、収集しなかった。また県庁文書は戦災で焼失し、戦後の文書は公文書公開の手続きで開示されている（担当は別）。なお、公文書館設置については、計画はあったが現在は中断中である。刊行史料は当所の向かいにある県文化センターで閲覧できる（県立図書館の機能を持つ）。

近代文書では、特に次の2点が目を惹いた。

まず、犬養毅関係文書。犬養毅関係文書について、所蔵の経緯は以下の通りである。元来犬養毅関係文書は小川家文書として文化センターが預かっていた。整備班で収集した目録（「犬養家文書目録」）はその際作成された目録である。その文書が犬養木堂記念館に移されている。その後整備班に寄贈されたものがある。この目録は作成されていない。

閲覧したところ、犬養毅宛の書翰が60余通あった。

次に花房義質関係文書（目録収集）。本文書は東京都立大学所蔵で北泉社よりマイクロ刊行されたものとは別系統のものである。北泉社よりいずれ発売されると聞いていたが、計画はないとのことであった。なお、この中の景山英子書翰については、『山陽学園大学山陽論叢』第1巻で活字化されている。

収集しなかった文書目録としては以下のものがある。

『愛山文庫目録』（津山郷土館）：津山松平藩の文書目録。維新期の藩日記、明治期の家扶日記あり。

『津山郷土館報』第9集「美作国津山町玉置家文書目録」：津山町の大年寄。明治初年の町関係の資料あり。

『津山洋学資料館資料目録』：近世。宇田川・箕作関係史料。

『岡山県御津郡建部町関係史料目録』：行守家文書に、郡会議員を務めた行森猪太郎・貫太文書があったが、郡会関係は少なかった。

『服部和一郎家所蔵文書目録』『服部完二家所蔵目録』（東大社研）：大地主家史料

収集目録

「〔文書整備班所蔵目録リスト〕」

「大原家文書目録」：倉紡創立者の大原総一郎の家文書。近代文書もある。

『野崎家文書目録』（内海塩業株式会社社史編纂委員会）：創業者野崎家の家文書

「森上家文書目録」（概要のみ部分コピー）：岡山孤児院関係の資料

「足守木下家文書」(部分コピー): 大名家、近代家政関係文書あり。

「犬養家文書目録」: 上述「調査史料」参照

「松本文庫付属資料目録」: 松本学文書。憲政資料室にマイクロあり。

「山田剛太郎文書目録」: 実業同志会関係の文書あり。

「花房家文書仮目録」: 上述「調査史料」参照

2) 調査機関 犬養木堂記念館 (面会者 主任・国広佳代氏、学芸員・石川由希氏)

調査史料

文化センターより犬養毅関係文書を移管されている。開館にあたり県下の文書も調査し、礼状類を除いたものが、刊行された『犬養毅関係文書』の補遺編である。その後も古書店からの購入や、寄贈を中心に書翰類を収集しているが、礼状・挨拶状が中心である。目録は新規分のみ作成中である。なお紀要が第2号まで刊行されていた。

財団法人岡山県郷土文化財団は、当記念館の他に岡崎嘉平太記念館を運営しており、日記などがあるようであるが、今回は調査できなかった。

収集目録 (なし)

3) 調査機関 山口県文書館 (面会者 専門研究員・南方長氏)

調査史料

山口県文書館については、平成12年度に副館長の戸島昭氏に、当研究会で概要を伺っており、その実状調査に赴いた。

行政文書(県庁文書)については、すでに戸島氏より1910年代以後の完結文書に関する目録を寄贈していただいております。明治後期からの文書が残っていることは了解していましたが、さらに明治初期からの文書が豊富に存在していた。仮目録は以前より存在していたが、平成13年に1900年代完結簿冊文書の目録が刊行されていることがわかった。出張終了後、購入依頼をすることとする。

家別文書は、近世文書を中心に多数存在した。近代関係で目に付いた文書は以下の通り。

「滝口家文書」: 教育者・県会議員の滝口明城への書翰、屏風に表装のものを撮影して収集。山尾庸蔵などの書翰あり。

「吉富家文書目録」: 木戸・井上に近く、国会議員も務めた吉富簡一の文書。政府高官の書翰もあり。マイクロ化。

「米光家史料」: 大正中期の県会議案あり。

「吉田松陰文書」: マイクロ化。

収集目録 (なし)

当文書館は写真撮影以外コピー不可とのことであり、今回は目録を複写収集しなかった。刊行分は戸島氏から寄贈を受けているものもあり、平成13年3月発行の科研費報告書を参照されたい。

また戸島氏より、山口県博物館に木戸孝允関係の史料があるとの情報を受け、目録も頂戴したが、先方との日程の関係で調査できなかった。

4) 調査機関 東行記念館

調査史料

当館は時間の関係でアポイントを取らずに訪れ、以下の史料を購入した。『高杉晋作と奇隊』によって、所蔵史料はおおよそわかると考えている。

収集史料・目録

『高杉晋作と奇兵隊』（東行庵、平成1年）

『高杉晋作・奇兵隊関係文献目録』（一坂太郎編、東行庵、平成9年）

⑥調査者 梶田明宏（宮内庁書部陵部主任研究官）

調査期間 平成13年12月6日～12月9日

調査機関 水俣市立蘇峰記念館

熊本近代文学館

横井小楠記念館

新聞博物館

徳富記念館

調査史料 上記の機関等において、日本近代関係史料の所蔵等を調査した。

成果

今回の調査先のほとんどが、博物館・記念館であった。歴史的史料の保存・公開という観点から、以下の共通の問題が見られる。

1) 文書史料（日記・書簡・書類など）と、書籍、遺品類などがあまり区別されず、歴史研究に必要な史料とは何かということが管理者にあまり認識されていない。

2) 展示に重点を置き、史料を閲覧する体制がない。

3) 収蔵品台帳はあるが、一般に公開された目録・リストがない。

今後こうした機関の所蔵史料の公開をどのように促していくかが課題となると思われる。

収集目録

蘇峰記念館収蔵品台帳（複写）

熊本近代文学館特別資料リスト

熊本県立図書館所蔵・竹塚家文書目録他（複写）

横井小楠記念館寄託品リスト（複写）

新聞博物館収蔵品台帳（複写）

徳富記念館収蔵品台帳（複写）

⑦調査者 清水唯一郎（政策研究大学院大学リサーチアシスタント）

調査期間 平成 13 年 12 月 11 日

調査機関 沼津市明治史料館・江原素六記念館

調査史料 江原素六関係史料

本史料は江原素六先生顕彰会、江原有信・貞子氏、風間伊作氏がそれぞれ同館に寄贈した史料からなるが、その大半は顕彰会の寄贈分であり、文書のみならず、江原の遺品、蔵書も含む膨大なものであり、総数は八三四三点に上ぼる。

同史料には同館刊行の目録『江原素六関係資料目録』（1987 年、絶版）があり、有用である。目録は辞令（分類 A）、書簡（E）、葉書（F）、遺稿（J）、伝記・履歴（M）、日記・帳簿（N）、各種書類（P）、手習用紙（W）、ふすま下張用紙（X）、敷物用紙（Y）のように分類がなされているが、手習用紙やふすま下張用紙、敷物用紙の中にも書類、書簡も多数含まれており、利用する上で注意が必要である。

書簡のうち多くを占めるのは学校関係、キリスト教関係、そして静岡県内の政治についてのものである。静岡県内の政治については自由党系の足立孫六からの報告が比較的整っている。書類になると中央の政治に関係するものが目立つ。また、いずれにおいても養豚関係の史料があり、帳簿などと合わせれば政治家の家政を知るよい材料となり得るであろう。遺稿には政治関係のものと教育関係のものが見られるが、各種の江原伝が主に麻布学園の関係者によって編まれたためか、政治関係の遺稿には伝記未収録のものが目立っている。日記は主に以下のものがある。

N-1 明治 17 年 4 月～18 年 6 月

N-2 明治 19 年～29 年

N-3 明治 31 年～36 年

N-4 明治 38 年～大正 5 年

N-5 明治 15 年～39 年

N-6 大正 5 年度雑記

N-8 朝鮮騒擾地巡回日誌

N-9 渡米日誌

上記の記述年数からも明らかなように、残念ながら一貫して書かれてはいない。また、同様に、記述自体も詳細なものではない。また、ものによっては後日、回想的に執筆された可能性も否定できず、検討が必要である。

最後に、本史料には若干の近世史料も含まれていた。中でも注目されるのは、江原の妻、縫子の実家である川村家の関係史料で 17 点の書簡が確認されている。

調査史料 沼津兵学校関係人物資料

ついで、同館が近年、精力的に収集している「沼津兵学校関係人物資料」を調査した。本史料は徳川家、海軍と深い関係を持つ沼津兵学校に関係した人物の、20 の家別史料群からなる。しかし、史料の実態を調査すると、沼津兵学校関係の資料よりも、関係者のその後の履歴に関わる史料が目立つ。「大野貫一関係資料」所蔵の『山中庄司日記』や海軍技術

者として教授となる「熊谷直孝関係資料」はその代表的なものである。また、若干ではあるが田辺朔郎の史料も確認された。

その他、同史料館には静岡大務新聞、静岡民友新聞、静岡新報などの県内紙がマイクロフィルムで丹念に集められており、有用である。

収集目録

『沼津兵学校関係人物資料目録』（沼津市立明治史料館、1996年）

（補足調査）

江原関係の資料調査のため、別途下記二館を調査したので、概要を付記しておく。

調査機関 青山学院大学大学資料センター

調査実施日 平成13年11月30日（金）

青山学院大学には、学園幹事を務めた経緯からか江原素六関係資料（整理番号AA-146-E1）が所蔵されており、江原の書簡、学園報告が納められている。

調査機関 麻布学園附属図書館学園史資料室

調査実施日 平成14年2月15日

麻布学園は江原素六を創立者とする学園であり、学園史資料室には江原の教育者としての史料が保存されていた。中でも、『麻布中学校校友会雑誌』が明治32年の刊行以降、昭和19年まで比較的揃った形で保存されており（昭和17年に『報国』と改題）、これには江原の執筆した論稿が数多く掲載されている。

⑧調査者 奥健太郎（武蔵野女子大学非常勤講師・洗足学園短期大学非常勤講師）

調査実施日 平成13年12月22日

調査機関 日鉱記念館（面会者 吉成茂氏〔同記念館学芸員〕）

調査史料 久原房之助関係史料

久原房之助は、久原鉱業を設立した実業家であるとともに、立憲政友会総裁を務めた政治家としても知られる。日鉱記念館は、久原鉱業の系譜を継ぐジャパンエナジー、日鉱金属両社の関係史料を所蔵展示する機関である。今回の調査では、日鉱記念館所蔵史料のうち、久原房之助の関係史料を調査した。

同記念館所蔵の久原房之助関係史料の多くは、日本鉱業（ジャパンエナジー、日鉱金属の前身）が久原の伝記（久原房之助翁伝記編纂会編『久原房之助』、日本鉱業株式会社、昭和45年）を編纂した際に収集した史料である。平成13年12月現在同記念館は、久原関係史料について冊子体の目録は作成していないが、部内用に史料情報を同記念館内のコンピューターに入力している。したがって、史料閲覧の際には、このデータをプリントアウトしたものを目録として利用することになる。

同記念館所蔵の久原関係史料の多くは、実業家としての久原に関する史料である。同記

念館の目録の分類に従えば、「書籍・雑誌・新聞等」の史料が約八十点、「書簡」が 3000 点、「一般文書史料」が約 120 点、所蔵されている。書簡のうち、222 通の書簡は、同記念館がワープロ原稿におこし、これを『(日鉦記念館資料) 久原翁宛書簡集—創業期の部下と関係者からの手紙—』として製本したが、公刊はされていない。同書に収録された書簡の大部分は、創業期の明治三七年から明治末期にかけて、久原の部下が久原に宛てたものである。同書によれば、これらの書簡は日鉦記念館建設後、久原家から日本鉦業に寄贈されたものであるという。

同記念館所蔵史料のうち、久原の政治活動に関する史料は、必ずしも多くない。まとまったものとして、久原関係の新聞記事を収録したスクラップブック（昭和六年～昭和一五年）が三三冊ある。また、久原の世界観、政策提言等が記されたパンフレット類が数点所蔵されている。この他、久原が二・二六事件により収監された間に記した獄中日記（「別荘日誌」）も所蔵されているが、その他の時期の日記は所蔵されていない。なお、前記の目録には存在しない史料として、孫文の久原宛書簡が数点あり、この他写真史料も未整理のまま多数所蔵されている。

なお、今回の調査では吉成茂氏、その他の職員の方々に大変お世話になった。記して感謝申し上げたい。

収集史料

日鉦記念館所蔵久原房之助関係史料のデータをプリントアウトしたもの

『(日鉦記念館資料) 久原翁宛書簡集—創業期の部下と関係者からの手紙—』

成果と課題

日鉦記念館には、戦前戦後にわたる久原房之助関係の貴重な一次史料が所蔵されていたことが確認された。しかしながら、同記念館の史料はこれまで十分活用されていない。とりわけ、実業家としての久原に関する史料は、経済史の分野で大いに活用されるべき史料と思われる。また、史料の残存状況から考えると、久原の政治活動に関する史料も、遺族のもとに残されている可能性がある。さらなる史料発掘が今後の課題であろう。

⑨調査者 山崎有恒（立命館大学文学部助教授）

調査期間 平成 14 年 2 月 1 日～2 月 2 日

調査機関 鹿児島県立図書館

鹿児島県立歴史資料センター黎明館

調査史料 中井弘（元老院議員、貴族院議員、京都府知事）の関係史料の調査

成果

中井弘（元老院議員、貴族院議員、京都府知事）の関係史料の調査を行った。学芸員の吉満氏から中井弘関係文書の伝来についての聞き取りを行い、中井関係の伝記史料を数点収集した。

収集史料・目録

「薩州頑質列伝 俺はおれ 中井弘の巻」1～22（複写、南日本新聞夕刊連載、昭和 46 年 12 月 22 日～昭和 47 年 1 月 22 日）：中井の読み物的伝記

濱谷由太郎『楼洲山人の追憶』（複写、昭和 9 年 11 月 25 日、非売品）：中井の四十周年法要に際して配布されたもの。書簡等未発見史料を含む。

『楼洲山人席上演説』（複写、明治 29 年 8 月、東京報行社）：中井が生前語った言葉を原敬が編纂したもの。

⑩調査者 武田知己（日本学術振興会特別研究員）

清水唯一郎（政策研究大学院大学リサーチアシスタント）

出張期間 平成 14 年 3 月 9 日～3 月 13 日

1) 調査機関 都城市立図書館

調査実施日 平成 13 年 3 月 9 日

調査史料 上原文庫

同図書館が所蔵する史料の中で、今回は「上原文庫」の調査を行った。同文庫は都城出身である上原勇作の陸軍大臣就任を祝って大正 2 年 12 月に設立された。設立に当っては旧藩主である島津久家男爵、上原、財部彪を名誉顧問としたもので、これらの人物からの寄贈書が文庫の元となっている。その後も上原からの書籍寄贈が続けられたようである。なお、上原の旧蔵書には「上原蔵」の蔵印が捺されている。

3 月現在、同図書館内の閉架書庫内部で移設作業中であった。

今回、実際に閲覧した史料は以下の通りである。

『三国名勝図絵』（天保 12 年）、『都城島津家略史』（大正 12 年）、『関西陰徳太平記』（正徳 2 年）、『黒羽藩戊辰戦史資料』（大正 7 年）、「宮崎県啓行誌」（宮崎県庁、明治 45 年）、「北郷久信報効事並歴代系譜」、人見一太郎『欧州見聞録』（明治 34 年）、鹿児島市役所「行啓日誌」、床次竹二郎『手向草』、『軍事新報』（明治 42 年～大正 1 年分、4 冊に合本）、荒木貞夫『皇国の軍人精神』。

なお、同文庫の全容は同図書館所蔵の「上原文庫原簿」がある。

2) 調査機関 都城歴史資料館

調査実施日 平成 14 年 3 月 9 日

調査史料 都城県関係資料

訪問当日、都城県（のち、宮崎県に編入）の成立過程についての特別展が開催されており、旧藩主である都城島津家の史料が数多く展示されていた。

調査史料 上原勇作関係資料

上原勇作の旧蔵史料のうち、遺族からの寄託・寄贈により同資料館に現蔵されているうち、主なものを以下に記す。なお、これらの資料は事前に申し込みをすれば閲覧可能との

ことであった。

写真（少尉時代、乗馬姿）

辞令（陸士卒業証書、男爵受爵、従一位賜位）

フランス留学中の論文「野戦の研究」（仏語：1884年、邦訳：1898年）

日露戦争作戦地図（明治38年4月）、同作戦文書（同左）

上原家系図（藤原姓上原氏系譜、知行高目録など）

上原勇作履歴書

3) 調査機関 鹿児島県歴史資料センター黎明館

調査実施日 平成14年3月10日

同館では所蔵史料のうち、県の所有となっているものに関しては殆どを目録に所収している。また、これについては同館内の端末で検索できるとのことであった。目録は大部にわたるものについては家分けで分類されている。また、小部のもので「明治大正」「昭和」と一括りにされている文書も分類番号ごとに追って行くと寄贈者により纏まっているようである。また、注意したいのは、目録には「分類番号」と「台帳番号」が記載されていることである。請求に際してはこの「台帳番号」が有効であるとのことであった。

調査史料 「折田兼至宛上原勇作書簡」（文613、614、615）

「折田兼至宛長谷場純孝書簡」（文4173、4174）

勝目洋氏寄贈文書（文7838）：自治体警察関係資料など

収集目録

黎明館編刊『鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵品目録（XVI）文書（5）』（2000年3月）

霞会館資料展示委員会編『黎明館会館10周年記念特別展 岩倉使節団 内なる開国』（霞会館、1993年、図録）

黎明館編刊『鹿児島県歴史資料センター黎明館常設展示図録』（1996年）

パンフレット3点（『黎明館』（鹿児島県）、『黎明』第14号（1997年）、18号（2000年））

4) 調査機関 鹿児島県立図書館

調査実施日 平成14年3月10日

同館は城山の麓にあり、黎明館に隣接している。所蔵資料は基本的に書籍資料であるが、郷土資料のコーナー（開架）が広く取られて整備されている。資料としても明治期のものも比較的所蔵されている。所蔵資料は館内、もしくはWeb上のOPACで所蔵を確認することができる。なお、下記収集目録のように、ほぼ5年間隔で目録を作成されているとのことであった。

収集目録

鹿児島県立図書館編刊『鹿児島県立図書館郷土資料増加目録 自昭和53年4月1日至昭

和 58 年 3 月 31 日』

5) 調査機関 福澤諭吉旧居、福澤諭吉記念館

調査実施日 平成 14 年 3 月 11 日

同記念館では福沢を始めとして小幡篤次郎、増田宋太郎、白石照山などの原資料を数多く所蔵している。同館では特に頒布しうる資料目録などは作成されていないとのことであった。なお、同館所蔵の資料は慶應義塾大学福沢研究センターが総ての複製を所蔵しているとのことであった。今後、福沢研究センターの状況を調査することが必要であろう。

6) 調査機関 臼杵市立図書館

調査実施日 平成 14 年 3 月 11 日

調査史料 福澤文庫

福澤文庫は全 156 冊。福澤が中津を立つ際に白石照山を通して臼杵藩に 15 両で買い上げてもらった蔵書。臼杵市が稲葉家から寄贈を受けた資料の中から発見されたもので、漢籍が大半を占めている。今回の調査では展示室が工事中のため、一点一点を確認することは出来なかった。

調査史料 臼杵市関係資料

同館所蔵の「臼杵藩文書目録」には、藩政時代の史料のほか臼杵町関係の近代史料も所収されている。福澤文庫同様、実物を調査することは出来なかったので、以下、目録より重要と思われるものを抜粋しておく。

『豊州新報』(M30-42 は数点、T12-S16 は一部欠)、『大分新聞』(T11-S16)、『臼杵新聞』(M32-38 数点、S12,13)、『臼杵毎日新聞』(S12-S14)、「荷揚城日誌」(M10、1 冊。西南戦争関係の資料)、「卒族明細記」(M02-05)、「臼杵歴史資料草稿 甲乙」(2 冊)、「自昭和 26 年至昭和 35 年事務引継ぎ」(臼杵市、1 冊)、「町村合併に関する書類当座綴」(S25)「町村合併一件綴」(S28-30、1 冊)、「事務報告一件」(S01-21、S26-34、S35-39、3 冊)、「事務引継書」(S25、29、33、37、45)、「重要施策資料一件」(S40-45、1 冊)、「サントリー(株)臼杵工場廃液による臼杵川汚濁問題一件」(S38-45、1 冊)、「大阪セメント工場誘致に関する資料綴」(S44-48、1 冊)。

また、同館に隣接する臼杵民俗資料館(荘田平五郎創設)には「臼杵商談会日誌」(M25-38)、「会場日誌」(M19,22)、「臼杵商談会録事」(M38-T08)、「臼杵商談会録事」(T09-S13)、臼杵海産会社資料、「議事録 臼杵海産株式会社」(M22-S08、民俗資料館蔵)、「議事録 臼杵海産株式会社」(S09、同前)、「海産会社設立願等控」(M22、同前)などが所蔵されている。

収集目録

「臼杵藩文書目録」(臼杵図書館、原簿)

「鶴峰福澤菊川三先生図書目録」(臼杵図書館、原簿)

7) 調査機関 大分県先哲史料館

調査実施日 平成 14 年 3 月 12 日

同館にはすでに以前にも出張調査が行われているが、恒常的かつ積極的な資料収集が行われている機関であるため、今回も新収資料を中心に調査を行った。

今回調査した史料とその概要は以下の通りである。

調査史料 福澤諭吉自筆書翰 (94-049) : 島津萬次郎宛、明治 12 年 1 月 19 日付書翰

福澤諭吉自筆書状 (95-003) : 東條利八宛、明治 3 年 12 月 26 日付書状

福澤諭吉自筆書状 (95-004) : 田中米作宛、明治 14 年 1 月 22 日付書状。

『民間雑誌』(95-012) : 4 編 4 冊。福澤諭吉、小幡篤次郎、中上川彦次郎、矢野龍溪らの論稿を所収。

山本達雄書翰 (96-006) : 家族宛書簡 7 通。

福澤諭吉草稿「炭鉱視察」(97-007) : 1 巻 2 点。明治 21 年 8 月 19 日付時事新報社説の草稿

ノモンハン陣中日誌 (99-001) : 1 冊。長岡一美氏の陣中日誌。第二次ノモンハン事件の 6 月 1 日～9 月 15 日まで。

同館の平成 12 年度新収資料 : 日露戦役関係史料 (188 点)。『第十二師団戦闘史』執筆史料として集められたもの。「陣中日誌」、「四十七連隊各隊戦闘詳報」など。

収集目録

大分県先哲史料館編刊『史料館研究紀要』第 6 号 (2001 年)

8) 調査機関 元外務大臣東郷茂徳記念館

調査実施日 平成 14 年 3 月 9 日

調査史料 東郷茂徳関係文書

本記念館には、元外務大臣東郷茂徳に関する文書の一部が展示されている。文書の所蔵は東郷家であり、その全体像は、東郷家が把握しているものと推測される。目立った史料としては、東郷の回想録『時代的一面』の草稿、一九四二年正月の外務省員に対する訓示の原稿などである。また、獄中における家族宛ての手紙なども残されている。

9) 調査機関 山溪谷偉人館

調査実施日 平成 14 年 3 月 10 日

調査史料 重光葵関係文書

重光葵の故郷に当る大分県東国東郡安岐町にある同館には、重光の後援者などの重光葵関係の文書が展示されている。その中に、前回 (2000 年) も報告した重光の外交報告書の冊子版がある。重光の外交報告書は、当時の外務省で報告書のお手本とまで言われたもの

で、西園寺公望も絶賛しているものである。しかし、何故か、外交史料館には全体が残されておらず、全容が分からなかった。

同館に保管されている冊子は三冊あり、タイトルは、『東亜政策の建設』『欧州戦争ト東亜』『大東亜戦争一年』である。特に『欧州戦争ト東亜』『大東亜戦争一年』は、それぞれイギリス大使（1938年～1941年）、中国大使（1942年～1943年）時代のもので、これに、イギリス・ケンブリッジ図書館保管のソ連大使（1936年～1938年）の報告書を加えれば、大使時代の報告書の全てが揃うことになる。尚、この冊子化は、外務省の手になるものと推測される。（以上の三冊については、調査者が後にマイクロ化している）

⑪調査者 浅野豊美（中京大学教養部助教授）

調査期間 平成14年3月12日～3月14日

調査機関 松江市立図書館

島根県立図書館

調査史料 梅謙次郎関係の史料調査

成果

梅謙次郎（明治時代の民・商法学者、帝国大学教授、法制局長官、法政大学総理）の出身地が松江であり、近年になり、地方の活性化のための人物顕彰事業や民法制定百周年記念事業により、松江で梅の顕彰事業が行われたので、その事業にともなって収集された史料や、出版された資料を中心に調査した。

成果としては、松江図書館より、1990年に行われた顕彰事業の一環として作成された『わが民法の父 梅謙次郎博士 顕彰碑建立の記録』を献本いただいた。島根県立図書館においては、梅謙次郎博士の蔵書から献本された際の図書目録の一部を複写した（若槻礼次郎の印あり）。

梅の著作は膨大なものになり、すでに目録もいくつか発表されている。特に法政大学の岡孝教授の作成した『法学士林』に掲載の目録は最も有用である。しかしながら、島根県立図書館で閲覧させていただいた『山陰新聞』には、梅の記事が多数掲載されており、それは岡教授の目録にはもちろん載せられていない。『山陰新聞』、或いは韓国立法事業時の活動が記録された『皇城新聞』などの記事を、丹念に追う作業も、詳細な史料把握のためには必要であろう。

収集史料・目録

『わが民法の父 梅謙次郎博士 顕彰碑建立の記録』（献本、梅謙次郎博士顕彰記念誌編集委員会編集、1992年3月発行）

『島根県立図書館寄贈目録』（複写）：梅の蔵書の一部が寄贈された際の受け入れ原簿（現物紛失のものが多く、時系列で並んでいるため、梅蔵書がそれで全部であるという保証はない）

⑫調査者 武田知己（日本学術振興会特別研究員）

奥健太郎（武蔵野女子大学非常勤講師）

調査期間 平成 15 年 1 月 23 日～1 月 25 日

調査機関 滑川市立博物館

松村記念会館

福光町立図書館

富山県立図書館

1) 調査機関 滑川市立博物館（面会者 館長・松井保氏）

調査実施日 平成 15 年 1 月 23 日

調査内容

今回は滑川市立博物館に寄贈された石坂豊一関係史料を調査するため、同博物館を訪問した。天候不順のため到着が遅れ十分な時間があったとはいえませんが、館長松井保氏に多大のご便宜を図っていただき、下記の史料を閲覧することができた。松井館長は平成 13 年石坂豊一の企画展を開催されており、石坂関係史料について貴重な情報をご教示頂いた。

調査史料 石坂豊一関係資料

石坂は地方官吏、樺太庁事務官を経て、戦前は立憲政友会、戦中は同交会、戦後は日本自由党、日本民主党、自由民主党の代議士、国会議員として活躍した人物である。

石坂の旧蔵史料計 180 点が、昭和 60 年 2 月に郷里の滑川市立博物館に寄贈され、その一部は博物館に展示されている。正式な目録はないが、遺族が史料を寄贈した際の目録がある。その目録に従うと、石坂豊一関係資料には次のようなものがある。

- ①石坂の遺稿等（10 点）
- ②石坂宛書簡（13 点）
- ③石坂日記（明治 24 年～大正 10 年、昭和 9～10 年、昭和 35～44 年）
- ④写真
- ⑤印及び印譜
- ⑥位階叙勲等の証書
- ⑦功労賞の証及び記念章の証
- ⑧当選証書及び称号記
- ⑨感謝状委嘱状
- ⑩招待状
- ⑪戸籍抄本及び履歴書
- ⑫諸々の遺品
- ⑬諸々の書類

松井館長が特別にご遺族の許可をとって下さり、②の書簡、③の日記（昭和期のもの）を閲覧することが出来た。書簡類は著名な人物からのものを重点的に拝見したが、儀礼的

なものがほとんどであった。一方日記は、石坂が国政に参加していた、昭和9年・昭和10年の日記が記述の量も多く、貴重な史料であると思われた。戦後のものは参議院議員を引退した後のものであるが、手帳に小さな字でびっしりと書き込まれているため判読に困難を伴うものであった。明治、大正期のものは当日閲覧できなかったが、松井館長のお話によると、樺太庁の事務官時代の記録には、充実した記述があるとのことであった。松井館長は日記の復刻を予定されているとのこと、その完成が待たれる。

なお石坂豊一長男の石坂修一氏（最高裁判事）の関係資料も若干存在するようだったが、宮中からの招待状を拝見するにとどまった。

収集史料・目録など

「寄贈品目録」（正式な史料目録ではなく、遺族が遺品、史料を寄贈する際に作成したもの）

「石坂の国会における発言の年月日を一覧にしたもの」（戦後のみ）

滑川市立博物館編『議会政治の歩みと石坂豊一展』（滑川市教育委員会、平成13年）

石坂誠一講述、筆録『滅私奉公の人「豊一」』（松井保編集・発行、平成13年）

2) 調査機関 松村記念会館・福光町立図書館

調査実施日 平成15年1月23日

調査内容

富山県西砺波郡福光町にある上記二機関（両機関は隣接している）には、元農林大臣・松村謙三の遺族が所有する松村文書の一部が保管されている。部分的に『花好月円－松村謙三遺文抄－』（松村正直、昭和58年。非売品）、木村時夫他『松村謙三－資料編』（櫻田会、1999年、非売品）で復刻されているものの、小中学時代の修学旅行の紀行文、早稲田大学時代の日記や卒業論文、改進黨時代の国会演説原稿、福光町史編纂時の聞き書き記録など、興味深いものが展示されている。今回の調査では上記二つの機関の所蔵ではない文書を含めた松村文書の全体像までは調査できなかったが、今後の課題としたい。

以下では、比較的政治史に関連すると思われる一部の史料について、その概要を記す。今回の不躰なお願いに快く対応して下さった松村記念館、福光町立図書館、特に、突然のご訪問にもかかわらず、謙三氏についての思い出話まで聞かせていただいた松村寿氏に、心から感謝申し上げたい。

・「昭和二十二年三月二十七日付 重光葵宛松村謙三書簡」

松村が公職追放となり農林大臣を辞任した挨拶状に対する返事。重光は「農地法の成立ハ左傾を防ぎ混乱を預防するに大なる力あり、御功績ハ真二絶大と存候」と松村の功績を称えている。

・「昭和二十七年五月十三日付 重光葵発松村謙三宛書簡」

重光葵が改進黨総裁就任時に松村に宛てた書簡。重光は「小生も万事ご教示の程ハ無用意の俣裸にて決意を致した次第」と松村に心境を吐露している。また「今後の事ハ一重に

老兄の御指導御配慮を待たざるを得ず」と松村の支持協力を懇願した。

・「昭和二十八年六月三十一日付 松村謙三発市川市十郎宛書簡」

松村が改進黨の幹事長に就任したときに地元の後援者に当てた書簡。松村は幹事長就任を「小生一世一代の仕事」と語っている。

・「三代回顧録原稿」

北日本新聞に掲載され、後に東洋経済社から出版された『三代回顧録』の出版直前のゲラ。松村の口述の跡は残っていない。

・「松村謙三先生を偲んで 書簡資料」昭和 58 年 12 月 25 日

昭和五八年に記念出版された写真集『松村謙三先生を偲んで』に掲載された遺族、村田五郎、中曽根康弘などからの思い出を綴った書簡集。短いものの、例えば村田五郎は、戦時時代に富山県知事となったころの松村との関係などに触れており、参考にはなる。

・「おばあちゃんの話」松村寿 平成十四年 非売品

松村の母、多みの五〇回忌を記念して遺族が纏めた冊子。松村の幼少期の様子を窺い知る事ができる。

・「町田忠治伝編纂資料」

松村謙三が町田忠治伝（松村謙三『町田忠治翁伝』、町田忠治翁伝記刊行会、昭和 25 年）を編纂する際に作成した資料であり、仮綴じの状態でおおよそ 40 点存在する。これらの資料は伝記の草稿ではなく、原稿執筆の「材料」というべきものである。したがって、この中には町田の履歷的情報や町田の演説要旨等も含まれるが、より重要と思われるのは、町田と関係の深かった政界・官界関係者からの聞き取り記録、関係者の座談会の筆記録である。調査者が上記の町田の伝記と照合したところ、これらの記録の中には、上記の伝記の中に収録されていない情報も多い。また、談話の内容も町田の人物像から政治史の重要局面まで多岐にわたる。聞き取り対象者、座談会の参加者には下記のような人物がある。

大麻唯男、野田武夫、宮澤胤勇、松村謙三、佐賀直政、町田孝子、小原直、吉野信次、小泉又次郎、内田信也、村瀬直養、阿部壽準、宇垣一成、森信、その他多数の農商官僚

・「河合良成関係史料」

河合は、松村の隣（後に二軒隣になるが）の家で生れた。松村記念会館には、河合の自叙伝の原稿や書簡の一部も展示されている。

収集目録

「松村謙三著作所蔵図書目録」（福光町立図書館、平成 12 年 2 月）

「河合良成著作所蔵図書目録」（同上、平成 11 年 8 月）

「松村謙三伝記資料目録」（松村寿氏作成）

3) 調査機関 富山県立図書館

調査実施日 1 月 24 日～1 月 25 日

調査内容

富山県立図書館に収められている近代史関係の特殊文庫を調査した。

・「大衆芸能資料室」

富山県立図書館にある「大衆芸能資料室」には、「てなもんや三度笠」「花王名人劇場」などの製作者、澤田隆治氏（1933～ ）が収集した 3000 冊余りの図書、1500 タイトル、約 33000 冊の雑誌が収蔵されている。図書には、明治末期の落語集など一部の稀覯本があり、雑誌には、戦後のテレビ番組の紹介誌の他、『松竹』『東宝』などの戦前の映画雑誌も収蔵されている（但し欠号有）。富山県下ではかなりユニークな資料室であるが、他の同様の資料室、史料館の同種の史料と比較調査する必要がある。今後の課題としたい。

・「内山文書、文庫」

内山文書は、近世より富山藩十村役を勤めた内山家に伝わる古文書を中心に構成されている。近代史料も豊富であるが、その中心は歌稿である。また書簡も多数あり、その中には徳富蘇峰からの書簡が 20 通余りあり、若槻礼次郎からの書簡 4 通も存在する。一方、内山文庫は社会主義運動に参加していた内山弘文氏旧蔵の蔵書（共産主義関係の文献を多数含む）であるが、内山氏の手稿も一部含んでいる。

・その他、富山県立図書館は近代史関連の文庫を多く所蔵している。例えば、童話作家大井冷光の「冷光文庫」があり、大正時代の『少年』『少女』といった当時の雑誌が豊富に収蔵されていた。また「大田栄太郎文庫」には公刊された書籍以外にも、未発表の原稿も収蔵されていたことが注目された。この他には、国文学者の志田義秀の「志田文庫」、山岳研究家で俳人の中島正文の「中島文庫」、図書館学者の間宮不二雄の「間宮文庫」等がある。詳細は同図書館のホームページで知ることができる。

収集目録

『大衆芸能関係雑誌目録』（但し、欠号の確認には、資料室内に設置されているカード目録を利用する必要がある）

『戦後地方新聞連載記事索引（昭和 46 年 12 月現在）』（富山県立図書館、昭和 47 年）

『内山文書・文庫目録』（富山県立図書館発行、平成 6 年）

◇小括

当該年度の出張調査においては、上述の調査報告書の概要と成果に示したとおり、多くの刊行ないし未刊行の史料目録類および近代史料を発掘・収集し、各史料所蔵機関の現状を把握することができた。

地方文書の多くは市町村レベルでは公開にまで整理を進めることが難しい現状にある。各地に残されている未整理史料の目録化を促進し、同時に研究者が支援する方策を講じることが必要である。所蔵者側も所蔵史料の有効活用を望むことが多く、研究者側の協力態勢の整備が必要と思われる。本研究会に関して言えば、上述の出張報告書にあるとおり、従来の調査で所在を確認した大平正芳関係文書について、小池聖一氏が中心となって目録作成を進めている。また、児玉秀雄関係文書についても整理が進み、主要文書の書き起こ

し作業を進めるなどの活動を行ってきた。

今回の調査において、公開されていない重要な史料が存在することが確認された。しかし、未調査の機関はまだ残されており、史料所蔵機関への継続的な調査が望まれる。近代史料に関しては、保存機関（所蔵者）が変わることがしばしばであり、公開か非公開かも流動的である場合が多い。そのため、全国の史料保存機関とアーキビスト、研究者とのネットワークを構築し、こうした情報を常に監視することが求められている状況に変わりのないことが、今回の調査においても確認できた。史料の著作権者や所蔵機関側の公開に対する意識を変化させていくためには、このような史料情報のネットワークを構築し、史料閲覧のルールが整備されていくことが不可欠である。

以上のような課題を踏まえて、本研究会は今後も近代の研究者としての立場から、史料の保存・公開に関して積極的に発言していきたい。

2. 都内出張調査報告及び昭和期政党政治関連情報

今回の研究では、特にこれまでの活動で着手していなかった幾つかの機関や分野について、断片的にはあることを承知しつつ、以下のような調査を行った。その分野は、大きく分けて、

- ①昭和戦前期の政党政治家の史料調査
- ②東京都内にある史料機関における史料調査
- ③女性と政治をめぐる史料調査

の三つである。いずれも最終報告ではなく、今後の調査の基礎を提示できたに留まるが、以下、簡単な報告を記す。尚、調査担当者は、奥健太郎、神崎勝一郎、高橋初恵、武田知己、山崎裕美、である（括弧内は調査者を示す）。

①昭和戦前期の政党政治家の史料調査（奥健太郎）

本調査では、まず、政友会、民政党の総務幹事長経験者をリストアップし、関連文献の調査を行い、簡単な帳簿を作成した。手始めに、政友会関係者について網羅的に遺族の連絡先を調査し、連絡先の判明した遺族について問い合わせの手紙を郵送した。返事を頂いたご遺族とその回答の要旨（または調査結果）は以下の通りである。結論だけを先に記すと、新史料の発掘に至ったのは河上哲太だけであったが、調査は継続中である。また、民政党関係者、無産政党関係者、女性代議士などについても帳簿を作成しているので、今後とも調査を拡大していきたい。

また、この調査では特に伊藤光一氏にご協力を賜った。記して感謝申し上げたい。

調査結果報告（2003年2月現在）

○秋田清（秋田定夫氏）：秋田清、秋田太助のものを含め、ごく私的な資料を除き、国会

図書館憲政資料室に寄贈した、との回答を頂く。

○綾部健太郎（綾部正大氏）：資料を引き継いだ遺族の連絡先のご教示を頂く（目下、調査継続中）。

○今井健彦（長谷川創一氏）：面談して頂き、今井の資料を近々調査してみる、という旨のお話を頂く。長谷川進一（松岡洋右外相秘書官）の史料が存在することをご教示頂く（目下、調査継続中）。

○河上哲太（河上一郎氏）：『川上哲太伝』に掲載されている書画史料、家族宛書簡などを貸与して頂く。

○菅原傳（菅原傳一郎氏）：史料は存在しないとのことをご返事を頂く。

○砂田重政（砂田重民氏事務所）：議事録等のコピーがあるという旨の回答を頂く。

○瀧正雄（瀧正尚氏）：瀧が公刊した書籍のみ所蔵しているとの回答を頂く。

○田邊七六（田邊國男氏）：史料は自宅火災のために焼失した旨のご返事を頂く。

○土井権太（土井守氏）：面会して頂く。土井の史料は『太子町史』編纂の際、編纂会に提供したことは記憶にあるものの、現在それが返却されたか否か、どこに所蔵されているかは明確でないとの回答を頂く（目下、調査継続中）。

○中谷貞頼（中谷元事務所、中谷健氏）：自宅火災のため史料は焼失との回答を頂く。議事録等のコピーを郵送して頂く。

○広瀬為久（広瀬俊樹氏）：史料は伝わっておらず、おそらく戦災で焼失したという旨の回答を頂く。

○紅露昭：自宅に史料はなく、憲政資料室に寄贈したものが全てとの回答を頂く。

○前田米蔵（前田實子氏、前田和彦氏）：前田實子氏に面会し前田米蔵の人物像について、お話をうかがう。前田米蔵と前田家関係のスクラップブック、私的な葉書一枚が存在することを確認したが、その他の一次史料は存在しないとのことであった。

○松村光三（松村光雄氏）：史料は存在しないとの回答を頂く。

○三善信房（三善信一氏）：（目下、調査継続中）

○望月圭介（望月哲太郎氏）：史料は戦災で焼失したとの回答を頂く。

②東京都内にある史料機関における史料調査（奥健太郎、神崎勝一郎）

東京都内に存在している史料調査については、今まで必ずしも注意を払ってこなかった。この内、意外と知られていないが貴重な史料をもつ東京都立大学法政研究室と三井文庫について報告する。

1 東京都立大学・法政研究室（奥健太郎）

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

TEL : 0426-77-1111

東京都立大学法政研究室には、昭和戦前・戦中期の政治史関係の原史料が所蔵されている。ここでその概要を報告したい。なお、同研究室の石川紀子氏に調査に関する様々な便宜を図って頂いた。記して感謝申し上げたい。

(1) 「大政翼賛会第一原稿」

「大政翼賛会第一原稿」は、翼賛運動史刊行會[編]『翼賛国民運動史』(1954年)編纂時の基礎史料である。各巻は以下のタイトルで分冊されている(以下のものは、同資料室設置のカード目録による)。

『鹿児島県支部史』、『沖縄県支部史』、『静岡県支部史』、『岐阜県支部史』、『石川・富山県支部史』、『福井県支部史』、『京都府支部史』、『兵庫県支部史』、『滋賀県支部史』、『奈良県支部史』、『広島県支部史』、『鳥取県支部史』、『島根県支部史』、『山口・岡山県支部史』、『四国地方史』、『福岡県支部史』、『佐賀県支部史』、『宮崎・長崎県支部史』、『熊本県支部史』、『興亜運動史』、『大日本産業報国会史』、『大日本商業報国会史』、『農業報国会史』、『大日本労務報国会史』、『海運報国会史』、『機械化国防協会史』、『朝鮮における国民運動発展史』、『台湾皇民奉公運動発展史』、『大政翼賛会解散関係文書・国民義勇隊発足関係文書』、『大政翼賛運動ニ関スル参考資料抄録』、『翼賛会史編纂座談会』、『参考文献日本国民運動組織論』、『外編1・中国新民会史・東亜連盟史』、『外編2・中国大民会史・中国共産党史』、『外編3・中国国民党史』、『資料1』『資料2』『資料3』『資料—1政治新体制案、2経済新体制案、3農業新体制案』

各巻の性格は様々である。概して言えば、『〇〇県支部史』というように、「史」が標題につくものは、原稿としては一応完成している。しかし、『資料1』『〇〇文書』等の標題のものは、様々な史料を綴じて製本しただけのもので、原稿執筆の「参考資料」という性質のものである。

(2) 「安井英二文書」

安井は主に昭和戦前戦中期に活躍した内務官僚であり、新体制運動に深く関与したことも知られる。その安井の旧蔵文書、約130点(「戦前の部」105点、「戦後の部」26点)が「安井英二文書」としてファイリングされている。

(3) 「極秘・内外法政研究会・研究資料」

都立大学法政図書室には、内外法政研究会作成の研究資料、聞き取り記録が14点所蔵されている。内外法政研究会(内外法制研究会という表記もある)については、現在まで詳しいことは分からない。内容を見てみても、東京裁判に関連した記録があり、裁判対策としての一面を持つ活動を行っていたようである。同研究室蔵のもの他に、東京大学社研などにも記録が存在するものの、資料リスト収載の全てを所蔵している機関は存在しない。今回も全体の収集までは出来なかった。東京都立大学法政研究室所蔵分の標題は以下の通

りである。

『満州発展史（其ノ一）』、『満州発展史（其ノ二）』、『戦争犯罪人処罰ノ法律的根拠（速記）』、『交戦権拘束ノ諸条約』、『軍部ト内部情勢』、『政治ト外交ト軍部』、『満鮮統治ノ基調』、『軍部ノ政治進出ト大東亜戦迄ノ政情』、『日本外交ヲ繞ル国内情勢』、『新党運動及翼賛会ト軍部』、『翼賛壯年団小史』、『東条内閣及軍部ノ開戦責任』、『日独伊三国同盟ノ経緯』、『司法ファッションノ実相』

（４）満鉄『東京時事資料月報』の原本及びマイクロフィルム

本史料は、尾崎秀実著、今井清一編『開戦前夜の近衛内閣：満鉄『東京時事資料月報』の尾崎秀実政治情勢報告』（青木書店、1994年）に復刻されたものである。原本は二巻本として製本され、マイクロ化もされている。

2 財団法人・三井文庫（神崎勝一郎）

〒164-0002 東京都中野区上高田 5-16-1

TEL : 03-3387-9431 / FAX : 03-3387-9432

財団法人・三井文庫は、経済史の研究者には周知の史料機関であるが、政治史研究者にとってはそうではない。今回の調査の結果、下記のような政治史関連の史料を多数所蔵している事がわかった。

（１）「井上侯爵家より交附書類」

昭和2年12月井上家より、書簡を除いた文書を旧三井文庫が受け入れ。森恪の書簡に三井の対中資本輸出に関するもの有り。この史料の内、14点は『三井事業史・資料編3』に復刻・紹介有。

（２）「井上侯爵家より交附書類」の内「書簡」

伊東巳代治や都築馨六など300通ほどあるが、とりわけ益田孝や有賀長文といった井上馨と三井を結びつけた人物の書簡が多い。これらの書簡は、憲政資料室所蔵のものと搬入経路が異なる。尚、益田孝については「備忘録(写本)」があり、『三井文庫論叢』第30号に史料が紹介されている。

（３）「大蔵省旧蔵史料」

大蔵省文庫で保管されていた『明治前期財政経済史料集成』の原本の筆写にあたるもので、『世外侯事歴維新財政談』を変述した沢田章が収集したもの。後年の『明治財政の基礎的研究』でもこれらの史料を引用している。原本は関東大震災の時に焼失してしまっている。これらの中には「井上侯建議要項」なるものも存在する。

（４）「高陽文庫」及び「南三井家資料」

「高陽文庫」には、明治初期郵政史関係資料が有り、また「南三井家資料」にも「駅通

寮布達」や「郵便規則」等の資料がある。

(5) 「小石川三井家資料」

商社や為替会社など明治政府財政機関の御用に関する資料がある。また、創立前後の三井銀行関係の資料や幕末から明治中頃の書状類もある。

(6) 「特殊番号資料」

上記の「小石川三井家資料」のほかにも維新政府御用関係辞令などの資料も所有している。

(7) 各種談話筆記

また、本文庫には、談話筆記も多数残されている。『三井文庫論叢』でも、田中九右衛門翁談話筆記(15)、松島吉十郎談話筆記(16)、白塚喬太郎談話筆記(34)などが復刻されている(括弧内の数字は『三井文庫論叢』の号数)。

③女性と政治をめぐる史料調査 (山崎裕美)

女性と政治をめぐる史料については、今まで本格的な調査をしてこなかった。また、今まで女性と政治をめぐる史料についての手がかりも少なかった。かろうじて、「議会開設百年記念議会政治展示会 日本議会の100年」(目録、1990年、国会図書館)で、以下のような人物の史料の一部が利用されている事がわかる。

奥むめお、加藤シヅエ、菅野すが、下田歌子、神近市子、福田(影山)英子、清水豊子(紫琴)、山口シヅエ、中島(岸田)俊子、戸叶里子、堺為子、堺真柄、佐々城豊寿、河崎なつ。

また、「近代日本の女性と政治特別展展示——婦人参政への歩み」(目録、1993年、憲政記念館発行)でも女性代議士の史料が用いられているが、政治関連は、(1)と重なるところが多い。

一般に、女性代議士の史料は残されていないことも多いといわれているが、本格的な調査は今後の課題としたい。尚、本調査には、山口美代子氏、岩尾光代氏からお話を伺うことが出来た。その楽しく、有意義なお話の全体をここに紹介できないのが残念である。また、伊藤光一氏に紹介の労をとっていただき、伊藤隆先生には打合せにご参加頂いた。記して感謝申し上げたい。